

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	510 し尿収集経費	会計	01	一般会計
		款	04	衛生費
		項	02	清掃費
基本 施策	22 全市的に生活排水処理施設を整備する	目	03	し尿処理費
		細目	269	し尿収集経費
		細々目	01	し尿収集経費
行革大綱の重点事項番号		2		
担当部課名	コード	100600		担当者氏名
	名称	人権生活環境部浄化センター		
		森永 典生	連絡先	23 - 1179 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	旧上野市街地におけるし尿の収集を希望する世帯	※対象件数
成果(どうする)	行き届いたサービスで満足のゆく市民サービスを受ける事ができる。	
根拠法令・要綱等	伊賀市廃棄物の処理及び清掃に関する条例(平成16年11月1日条例第152号)	
開始年度	平成 不明 年度	関連事業
終了年度	平成 未定 年度	特になし
H23 事業 内容	し尿収集カレンダーによる各自治会単位の収集と、緊急を要する臨時収集を実施する。また収集地域の縮小についても引き続き検討する。	
社会情勢の 変化等	収集地域の縮小(民間へ移管)について検討している。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
			し尿収集件数	件	目標 18,000 実績 18,336	目標 17,500 実績 17,252
し尿収集量	%	目標 3,900,000 実績 3,894,510	目標 3,700,000 実績 3,712,420	3,600,000	3,000,000	

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
				し尿収集件数	旧上野市街地のニーズを示すもので 本事業の指標とした。	件	目標 18,000 実績 18,336
し尿収集量		%	目標 3,900,000 実績 3,894,510	目標 3,700,000 実績 3,712,420	3,600,000	3,000,000	

投入 コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	32,548	20,385	24,313	27,300				
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	32,548	20,385	24,313	27,300				
事業投入人件費 (B)	7.0人 50,400	11.0人 79,200	11.0人 79,200	11.0人 79,200				
フルコスト (A)+(B)	82,948	99,585	103,513	106,500				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 繰越の種別 繰越 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	直営し尿収集地域の縮小について、24年度に庁内関係各課と調整し、収集業者及びし尿汲取券取扱店と協議する。
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成23年度に伊賀市直営し尿収集・処理事業等検討委員会で、直営し尿収集地域の縮小地域を決定し、平成24年度に収集業者及びし尿汲取券取扱店と協議し、平成25年度から直営し尿収集地域を縮小して収集する。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 伊賀市直営し尿収集・処理事業等検討委員会で、直営し尿収集地域の縮小地域を決定した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	西 實
事業の方向性	【方向性】 縮小 【理由】 経費の削減のため、直営し尿収集地域を縮小する。
現時点における 課題、その他	直営し尿収集地域を縮小することにより、収集業者の採算及びし尿汲取券取扱店の廃止を協議する必要がある。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、 何を、どうする)	平成24年度に伊賀市直営し尿収集・処理事業等検討委員会で、収集業者及びし尿汲取券取扱店と協議し、平成25年度から直営し尿収集地域を縮小して収集する。